

急ぎ過ぎだよ 人類は。

ゆるやかなネットワークを目指す

ITより
逢いてエ

雑報 綱文

いろんな考えがあるから面白い
いろんな人がいるから楽しい

No. 672
2024年 2月

編集・発行 鈴木厚正
〒266-0005 千葉県緑区菅田町2-21-359
T&F 043-291-2917

も・く・じ

- | | |
|-----------------|----|
| ● 新型コロナの状況 | 2 |
| ● 「産仕事の真髄」ほか | 4 |
| ● お便りから | 8 |
| ● 山仕事(1月、大平、島田) | 18 |
| ● AIと人間 | 21 |
| ● 指箋力なき混迷に備えよ | 22 |
| ● け・い・じ・ば・ん | 24 |



泉ゆきを「山はいつも山頭火」
(日本習字普及協会)

+/名

1月 日現在の
会員数 206名

この見本誌をみて新たに

「読んでみようか」という方は、
年会費 4,000円を

郵便局で 10540-52760981
(鈴木厚正の口座)

へ 併い込んで下さい。

題	字	放	佐村隆英和尚 (千葉県長柄町本光寺住職)
カ	ッ	放	泉ゆきをさん (いっぽん箱絵の会会長)
ット			

印刷機 リソグラフ RZ 330

※ この号の切手は 絵本の世界 ⑩

(前号と同じだけど、切手の発行が
雑報の発行に遅いつのぼりです)

山仕事(1月、大平、島田)

暮れから正月にかけて鼻水が止まらない。白まけに鼻血が毎日のように出た。これまで経験したことないことだった。あとさきと、山崎さんも同じ症状で、医者に診てもらったという。一体、何だったのだろう。

1月9日(火)、晴。暖い日が続いたが、久ばり冬らしいピリッとなった寒さに。東京駅で「こだま」にのると、珍しく原田さんが、小田原で康江さん、掛川で山崎さんと合流。天浜線敷地駅で正士、久米、若林さんに迎えられる。正士さんとはくは家に直行。ちとの人は買物に。

今回、正士さんの身边では不幸が相次いだ。正士さんの従弟ミッチャンのお母さんが亡くなり、この日が通夜、翌日が葬儀。さらに、隣家丑さの連れあいの民吉さんも亡くなり3日後に葬儀とのこと。また、大平(おいたし)地区の家が欠ける。

この日は、秋に刈った草の集草。竹中さんも加わり、丑さんちの上の台地でレーキを使って草を集め、運び易いように台地のへりにまとめる。

この日、水室の昔乙女おと参相の申し出があったが、翌10日は島田市まで行くので断念していただいた。2月は、観音様のお祭り(西蒲田祭)があるので、次にお会いするのは3月となる。

康江さんと久米さんが調べてくれた夕飯は、

キムチ鍋、カブのサラダ、ユズドレッシング、タイのカムパッチョ、ピンチョウの刺身、かまぼこのゴボウ巻(康江さんが山口・萩から送ってくれたもの、冬野菜と厚揚げの中華風炒めに新生海苔。

はくは、母屋で寝袋に。

1月10日(水)、まあ晴。この日は、大井川を渡って島田市の小澤亭江(すず)さん宅の樹木整理だ。

車3台に分乗、8:40に出発し9:35到着。道路から入って正面両側に広がる樹木の整理だ。はくは、歩き出してすぐ「ザルッ」という感じ。足が重く、チェーンを持って斜面を上がるのもゆっくりだ。



原田さんの指示でそれぞれ別の木にとりつく。亭江さんから注文のあった木を伐倒し、枝葉を含めて細かくし、支障のないところにまとめる。

昼食は座敷に上がって、2日前からとりかかったという料理をいただく。

天ぷら(生サクラエビとネギのかき揚げにフネトラ、サツマイモ)、巾着(肉、レモン、ニンジン入り)、敷地肉とれんげいの子のメンマ、ブロッコリー、牛肉と野菜の煮物、漬物、吸い物、ごはん(白米、黒米)。

午後も継続。7台持参したチェーンソーに不具合が続出。正土さんが居ないので手直しできず。ツルのからまた木は、おへんがかりで引きずり倒す。

それとも手練れのメンバーで、ほぼ満足のいく結果を得た。

再び座敷に上がってお茶をいただく。せんだいに栗きんとん、そして抹茶が振舞われた。正土さんが居たら喜んだらう。

近くの「伊太和利の湯」につかり、暗くなった道を戻る。

予め用意された夕食。青山さん、橋田克己さんも参加していた。"

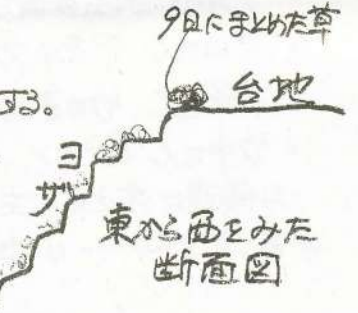
ブリ大根、里芋・ユズみそ、豚汁、白菜とホタテ炒り、シカ肉とレバ(橋田さん提供)、玉ネギ炒り(青山さん提供)、カボチャ煮(これも青山さん)、生のり。

この夜も、母屋で寝袋。

1月11日(木)曇り。この日は、集めた草を田んぼに散布する。

二日前に集めた草は丑さんと寝の台地のハリに集めてある。

従来は軽トラで上まで上がって運び出した。しかし、上にかかる道は狭く、雨水による侵蝕が進み、途中ヘアピンカーブがあって危険なため、正土さんが運転して



いた。しかし、今回正土さんは居ない。そこで、台地から道路に続くヨザの段々坂を、ヨザの草をまきこみながら落とすことにした。さいごの段は路面から1.5mほど高い擁壁となっており、横づけした軽トラに積み込むのに都合がよい。

いまはイノベーションのやりの中。この作業にもイノベーションがあった。まず、軽トラへの積み込みだ。軽トラに積み上げた草の山に山崎さんが上がり、足で草を荷台に押し込んだ。危っかしい作業だ。積み終ると、運搬中とび散らぬようブルーシートをかけてロープで押さえて運んだ。

今回、トラックの荷台両側にコンパネ(コンクリート型枠用パネル。91×182cm、厚さ1.2cmのJAS規格がある。扱い易く価格も安いのでさまざまな用途に使われる)をさし込み(おとり)ブルーシートをかけるでも飛散しにくいようにした。



そして、田んぼに散布するときも、3段階のイノベーションがあった。従来は、道路から田んぼに落とした草の山を、一人ひとりが抱えて歩きながら散布した。泥土に足をとられ、いやな作業だった。

1回目の刷新は山崎さんによるものだった。ひろげたブルーシートの上に草をのせ、2人が引っ張るおとについた1人がレーキをかき落とす。これで大分楽になった。



2回目は竹中さんの発案で、人が引いたブルーシートを無限軌道の運搬車で引くように工夫した。これが昨年(2022年)。

そして今回、これまた竹中さんの発案で、草を積んだ軽トラを、そのまま田んぼにのり入れるようにしたのだ。幸い、雨が少なく、田んぼへののり入れに支障はなかった。これで格段に楽になり、草のバラつきもなくなった。

こんな風に作業をしていると、楽しいですね。

(昼) カレーきしめん、卵のサラダ。そして思いがけず久米さんお手作りのアップルパイが姿を現わし、♪ハッピーバースデー コウセイさんの合唱が、
ありがとう、ありがとう。来年も歌ってもらえたらいいな。

敷地駅で正士、久米、竹中、若林さんに見送られ、帰宅。

次回、2月は、久米さん竹中さんの住む森町薄場で竹整理の予定。

今回も沢山のいただき物があった。感謝。

- ・ 袴田さん 干支のタオルとビール
- ・ 青山さん 原木シイタケ
- ・ 小澤さん 竹の子びん詰、レタス、女なかせ(地元の銘酒)
- ・ 竹中さん 夏シカン
- ・ 内田美智子さん お饅頭

お饅頭に添えられたメッセージ「戦争が終りますように。地震にあった人に慰めがありますように。山仕事の皆さんによいことがありますように」